



## 研究授業

学年・教科： 小学部第2学年 「自立活動」

題材名： 「3匹のこぶた」

ICT を授業で活用していくというテーマに沿って、とりわけ今年度は、視線入力装置の活用について考えられました。

視線入力装置を活用することで、子どもたちの意思表示をサポートする効果が期待され、本時の授業では、児童が自分の気持ちを伝える、友達の活動に興味を持って繋がっていくという目標が設定されていました。

さらに本時の展開では、お話の内容に沿って見立て遊びを行う中で、児童が自分で好きな方法を選択して伝え、対象物に関わっていく活動が設定されていました。

見たて遊びでは、フラフープでの操作、視線入力装置での入力やスイッチを押すことでボールが飛び、段ボールの家が倒れる工夫が考えられました。

協議のポイントは、視線入力装置やスイッチなどの支援機器が授業のどの場面で効果的に使われていたか、さらに視線入力装置が、今後の子どもたちのコミュニケーションの方法の一つとして活用できるかという点について話し合われたことです。



## 成果

今回の研究授業では、子どもたちが、二択の中で選択し、伝えることができるよう、視線入力装置やスイッチなどの支援機器を用いた様々な工夫や仕掛けがありました。

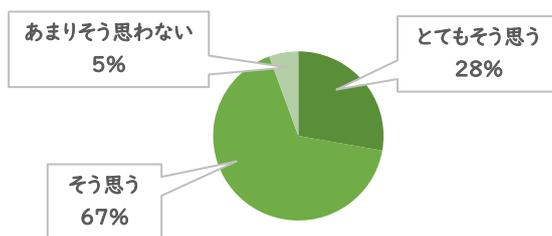
ICT を活用することで障がいによる学習上または生活上の困難さを改善・克服するための工夫の観点や視線入力装置の具体的な使用の仕方について校内で共有することができました。

また次年度に向けて、授業・単元で「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」ということを踏まえて教科の目標について意識することの大切さを確認しました。

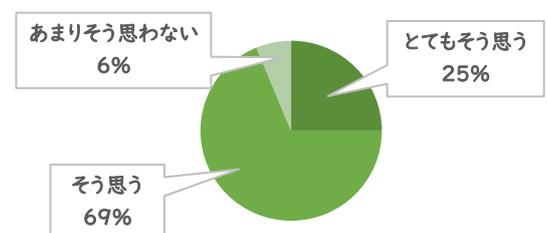


## アンケート結果

① 学校のニーズに添っていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想やご意見より)

- ・ 視線入力装置を取り入れた授業の組み立てが分かりました。
- ・ ICT など様々な新しい事を取り入れたり、PDCA サイクルで授業を見直したりすることが当たり前できるように、今回のような研修を続けていってほしい。
- ・ いろいろなアドバイスを頂けたので勉強になりました。
- ・ 教科学習の目標の立て方を考えていかなければいけないことを認識する機会になりました。
- ・ 視線入力装置を使った授業をすることで、他学部、他課程の教員にも良い例が提示でき、また実施された教員をはじめ、関わった教員すべてに良い機会となったと思います。
- ・ 前年度に引き続き研修支援頂いたことで、これまで取り組んできた授業に対して、より明確な評価、フィードバックができ、学部を越えて、ICT 機器の活用についての引き出しを増やすことができました。